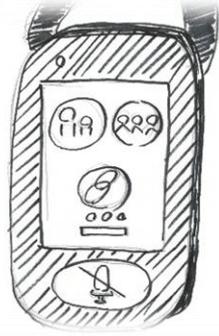


Q12

「校外学習や修学旅行について、どんな配慮が必要ですか？」



校外学習や修学旅行は楽しみですが、補聴器や人工内耳を活用するうえで、様々な配慮が必要になります。

まず、補聴援助システムのマイクを誰に使うてもらうか考えましょう。通常は、担任の先生に使うてもらいますが、説明するのがガイドさんなら、話す人に使うてもらいます。タッチスクリーンマイクのインタビューモードで使うこともできます。

班別活動をする場合は、班長さんにマイクを使うてもらうのか、マイクを使わないのかを考えます。

次に、雨や雪への対応です。濡れないように帽子をかぶったり、防寒用のイヤーマフで覆ったりする人もいました。

湖でカッターをこぐときには、人工内耳をつけた側を船の内側にしました。万が一人工内耳を落としても、湖に落ちないように座席を配慮してもらいました。

スキー教室で、マイク本体はウエアにしまつて、ラベルマイク部分だけ出すように工夫した人もいました。

臨海学校では、宿舎から海までは、補聴器や人工内耳を装用し、海での説明を聞き

てから養護教諭に預け、乾燥ケースで管理してもらうとよいでしょう。

宿泊をとまなうと、さらに配慮することが増えます。

補聴援助システムや人工内耳は充電が必要です。充電器を準備するとともに、どの部屋で誰が充電するのか、決めておくことが必要です。

補聴器なら予備の電池も必要です。忘れないようにしましょう。

「朝、どうやって起きるのか？」心配する人も多いです。補聴器や人工内耳を、夜間乾燥させるために外して寝ると聞こえないからです。友だちや先生に頼む人が多いですが、心配なので、補聴器をつけたまま寝ることにした人もいます。

いずれにしろ、校外学習や修学旅行の具体的な場面を想定して、話し合つておくことが必要です。「しおり」を使って、担任の先生やおうちの方、通級の先生とよく相談しておきましょう。

